



研究主題 児童が主体的に読み、表現する指導の工夫 — 説明的な文章を通して —

本校は昨年度から国語科：「読むこと」説明的な文章の研究に取り組んできた。国語の授業の基本を押さえながら、①ユニバーサルデザイン（どの子にとっても分かりやすい授業の工夫）②読み取り方（手引書の活用）③言語活動の工夫④語彙の習得を柱に、各学年・学級において授業実践を行ってきた。

その結果、ユニバーサルデザインをはじめ、様々な指導の手立てを講じることで、学習の仕方や読み取り方が分かり、児童が主体的に学習に取り組むことができた。また、読み取ったことや学習感想などを交流したことで、多面的な見方ができ思考を深めることに繋がった。

一方で、交流後に自分の読み取りや考え方を見直し、加筆修正する個の学びを十分に確保することや個に応じた語彙力や表現力を広げ高める手立てを用意し、児童の多様な支援方法を考えることが課題に挙げられた。そして、児童自身が学習課題やまとめ方などを選択し、主体的に学習する場面を増やすことが「主体的に読み、表現する児童」という本校の目指す児童像の実現につながるのではないかと考えた。

これらのことから、主体的に学習を進めることのできる児童の育成、及び説明的な文章における読み取り方の定着、語彙や表現の習得強化などの視点から、研究主題は、昨年度に引き続き、「児童が主体的に読み、表現する指導の工夫 — 説明的な文章を通して —」とし、より深い授業研究を目指したい。

さらに、本校の実態に沿った手引書の改定、語彙力向上のための資料作成や全校による取り組みに力を入れたい。